

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

一色小と西中を統合

教育委・再編案 「小中一貫教育校」を推進

3年後・施設分離型一貫教育校スタート、7年後・一色小と西中を統合——。二宮町は23日(木)の教育委員会議で、町内小中学校の再編成(小中一貫教育校設置計画)案を決めた。現在の5校を10年余をかけて一色小と二宮中を拠点とする小中一貫2校に集約するもので、今夏の町民説明会を経て年度内に決定する。一色小は西中、山西小を事実上吸収し、北の拠点校の役割を担う。今回の大規模再編は今後の町づくり、地域再生の取組みに大きな影響を与える。

令和4年4月 (5校)	令和8年4月 (4施設5校)	令和12年4月 (2施設4校)
一色小学校	一色・二宮西小中学校	一色・山西・二宮西小中学校
二宮西中学校		
山西小学校	山西小学校	二宮小中学校
二宮小学校	二宮小学校	
二宮中学校	二宮中学校	

再編成案は、①—③の3ステップで進める。①令和4年(2022)に5校は一色小・山西小・西中、二宮小・二宮中の2グループの施設分離型一貫校に移行②同8年(2026)に西中、一色小が統合し、一色小校舎で施設一体型小中一貫校をスタートさせる。一色、緑が丘の生徒はこの一貫校に通う。山西小は統合校と分離型一貫教育を行う③同12年(2030)に山西小を一色小・西中統合校に、二宮小を二宮中に統合する。(裏面に続く)



「なぜ一貫校を目指す？」こうりゅう塾開く

地域交流部会(山本正博部会長)は18日(土)、原道子教育委員を迎え「なぜ一貫教育校を目指すのか」をテーマにこうりゅう塾を開いた。このテーマは住民の関心も高く、65人が会場に詰め掛けた。原講師は長年の教職経験をもとに、「一貫教育推進」の立場から持論を展開。講演では、子供を巡る状況変化に対応しきれない学校システム、「中1ショック」、6・3制の課題などを幅広く取り上げ、先行実践校の具体例を紹介しながら、期待される成果について語った。

「9年間をつなぐ切れ目のない教育」は国、県レベルでの動きが始まっている。二宮町はH29年度から本格研究に着手し、30年度には地域代表、保護者、有識者などからなる研究会を設けて検討してきた。少子高齢化や人口減、学校施設の老朽化などの要因もあって「小中一貫」をてこに現5校体制を刷新することにした。

再編案で北の拠点になる一色小は、5校の中でも最も少子化の影響を受けており、ピーク時には1,200人いた生徒数は198人（今年5月）に激減してる。ただ、町北部にある立地、交通アクセスなどの優位性もあって拠点校として位置付けられたと思われる。

神奈川県 百合が丘で農業講座

神奈川県農政局は県住宅供給公社と協力し、百合が丘で農業講座を開く。水稻、野菜栽培の基本を学ぶ基礎講座と小田原などの農家で実地作業を手伝う援農希望者向けの二本立てで参加者を募集し、6-11月にかけて各5回ずつ行う。県住宅公社を中心に「農」による地域の魅力づくの動きが出ていることから、この地区を中心に「親農人材」を発掘し、県西地区の農業支援に結び付けたい考え。

講座は専門家が講師になる基礎編と実地研修があり、基礎編では果樹を含めた栽培の基礎知識を習得。百合が丘児童館で6月23日（日）から各月開催する。各回とも30名程度の受講者を見込んでいる。実地編の今年度は、水稻農家での実作業体験を中心に据え、5-10名の参加者を対象に、年間5-8回実施したいとしている。研修先は農家、農業法人などで、作業に対する報酬もある。

神奈川県は県西地区における農業人口の高齢化が著しいことから、農業従事者の支援体制を検討してきた。二宮町の北部では県公社の農業分野への取り組みが動き出し、住民の関心も高まっているとみて百合が丘で新たな試みを始めた。来年以降、野菜や果樹栽培での実地研修も検討する。（問合せ 県農政局生産振興グループ 045 - 210 - 4427）

7月末までの講座・催しスケジュール

- ・ 6/1（土） そば打ち・試食会 一色コミセン 10:00～
大人 1,000円（小中学生 300円）
- ・ 6/2（日） 邦楽演奏とお茶の集い ふるさとの家 14:00（呈茶 13:00～）
雅楽保存会、森丹山浄源寺住職、小林宗紀さんほか 呈茶券 300円
- ・ 6/8（土） 渡邊 恒文氏（NEDO AIプロジェクトマネジャー）ラディアンM2
「AIは人間を超えるか？」 参加費 300円（資料代・運営費）
- ・ 6/30（日） 野澤 千絵東洋大学工学部教授 「家が老いても衰えない街へ」
百合が丘児童館 13:30～15:30 無料
- ・ 7/13（土） 門脇義昭・葛川をきれいにする会代表ほか
「魚道を、遊歩道を！ 葛川を親水空間に」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300円（資料代など）
- ・ 7/21（日） 富田 裕明氏（神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所次長）
「神奈川県花<ヤマユリ>の全てを語る」 場所など同上